

1.登録件数・部位別登録割合

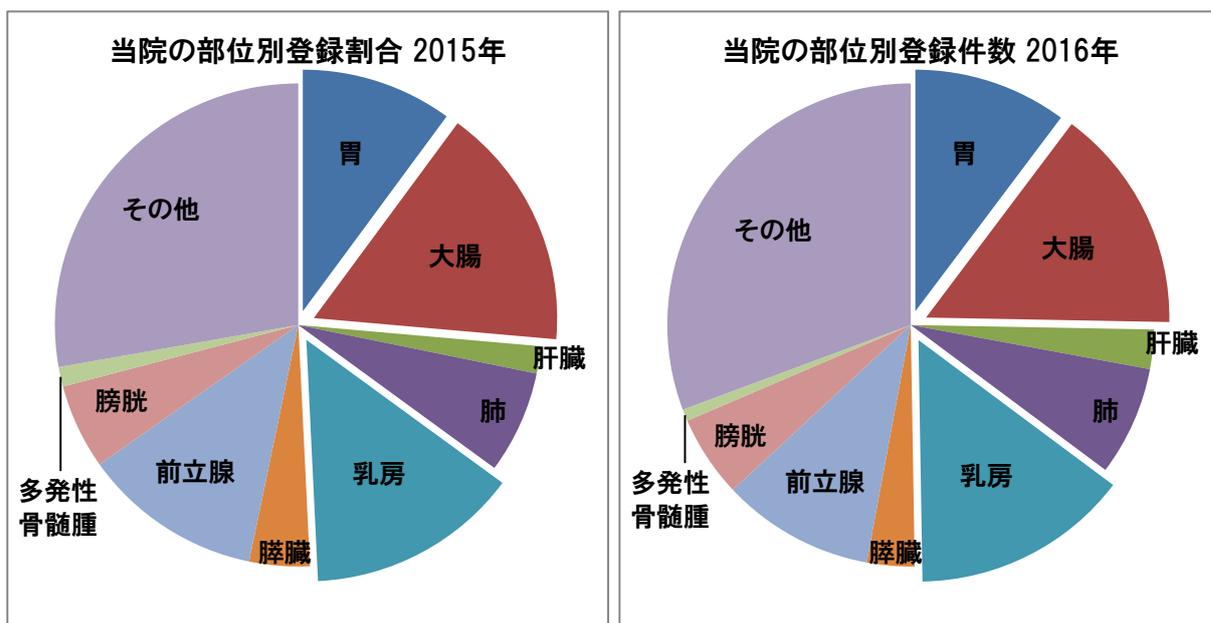
神奈川県内の院内がん登録数は東京・大阪に次いで全国3位となっています。がん診療連携拠点病院での1施設当たりの全国の登録件数の中央値(2015年)は1,440件となっています。

	2015年		当院の登録件数		
	全国平均	県平均	2014年	2015年	2016年
登録件数	1,579件	2,103件	1,358件	1,370件	1,518件

部位別の2016年当院の登録件数割合では、

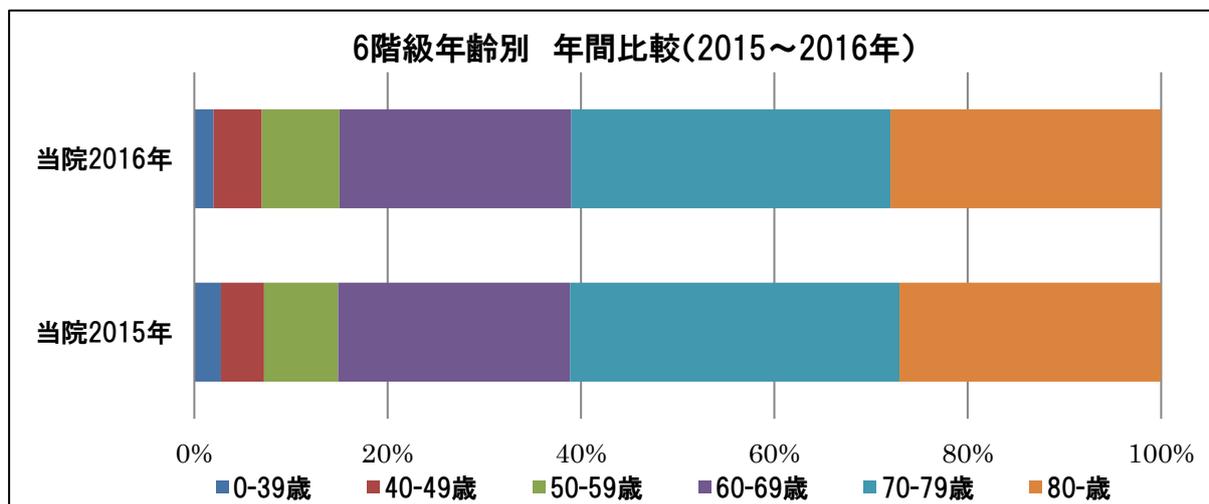
- 「膀胱」「多発性骨髄腫」の件数は、2015年の県平均値と全国平均値より多い。
- 「乳房」「膵臓」「前立腺」の件数は、2015年の全国平均値より多い。

当院で多い部位の割合順は、「大腸」が15.1%、「乳房」が14.5%、「胃」10.2%となっています。



2.年齢の割合

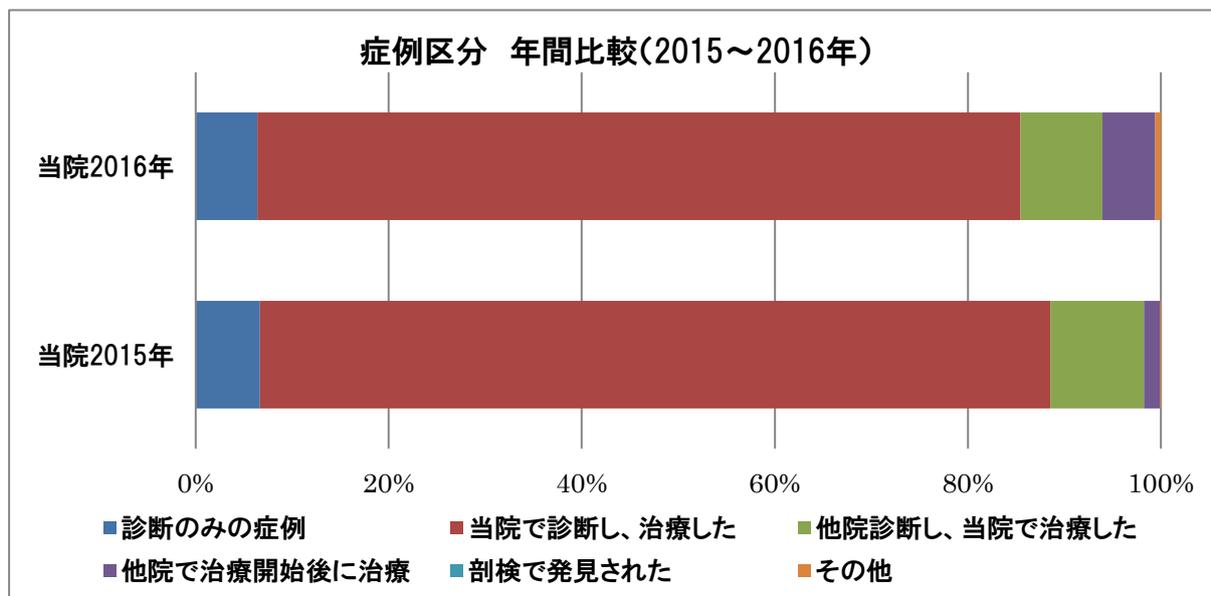
当院の2016年診断症例の平均年齢は70.9歳で、中央値は73歳です。全国の平均年齢では68.5歳となっており、当院は、全国平均よりも高齢ながん患者を診ていることとなります。



3.症例区分

症例区分は、がん診療連携拠点病院が、がん診断から再発治療までの一連の治療の流れで、主にもどのような役割を担っているかを推察するための項目です。

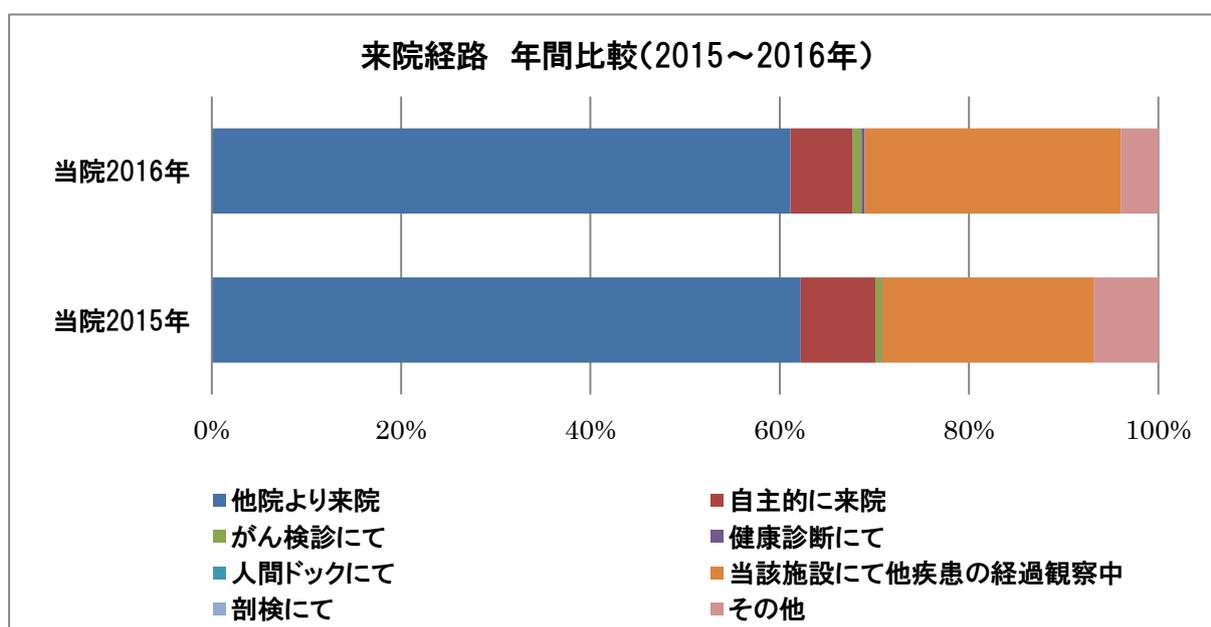
この条件は「当院で診断し、治療した」と「他院で診断し、当院で治療した」を合わせた患者数に相当します。当院は、2つの条件を合わせた割合は2014年92.5%、2015年91.6%、2016年87.6%と高い値になっています。したがって、がんと診断されて当院に来院された患者の約90%の方に治療を提供しています。



4.来院経路

来院経路は患者がどのような経路を経て当院を受診されたかを把握し、地域においてどのような機能を担っているかを、「他の医療機関との関係」を推察するための項目です。

2015年の全国集計では、「他院からの紹介」が中央値67.4%で半数の施設は60.4%～74.7%の間で分布しており、当院では「他院より」が61%で全国中央値と比べると平均的となっています。



5.発見経緯

発見経緯は、来院経路とは異なり、当該腫瘍が診断される発端となった状況を把握する項目です。何らかの症状があり、病院を受診して診断された場合には「その他・不明」に含まれます。

「がん検診・健康診断・人間ドック」をまとめた「がん検診等」の割合は、症状受診前に発見された患者の指標の一つとなります。

「がん検診等」で発見された割合は、全国平均値 15.2%、中央値 14.8%で半数の施設は 12.1%～18.1%の範囲に分布しており、当院では 2016 年で 11.9%となっています。

年度	がん検診等		他疾患の 経過観察中		剖検で発見		その他・ 不明		総計	
	2015	2016	2015	2016	2015	2016	2015	2016	2015	2016
胃	7.7%	8.9%	14.0%	20.4%	0.0%	0.0%	8.7%	7.1%	10.1%	10.2%
大腸	16.6%	15.0%	22.1%	21.1%	0.0%	0.0%	13.5%	15.1%	16.3%	15.1%
肝臓	0.0%	0.6%	3.6%	6.2%	0.0%	0.0%	1.2%	1.7%	1.8%	2.6%
肺	5.0%	7.2%	8.8%	12.8%	0.0%	0.0%	6.4%	5.9%	6.9%	7.3%
乳房	29.8%	30.6%	7.8%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	14.0%	14.2%	14.5%
前立腺	31.5%	22.8%	8.8%	16.2%	0.0%	0.0%	9.3%	6.0%	12.0%	10.1%
子宮	9.4%	5.6%	1.4%	4.0%	0.0%	0.0%	3.7%	3.6%	4.1%	3.6%
その他	0.0%	9.4%	33.5%	55.1%	0.0%	0.0%	42.9%	40.8%	34.7%	36.6%
全部位	14.6%	11.9%	30.7%	41.6%	0.0%	0.0%	54.7%	46.5%		

6. 主要 5 部位の病期分類と治療方法の割合

病期(ステージ)とは、「がん」がどれくらい進行しているのかを表します。患者の予後に影響を与える重要な要因で、最も早期のステージ0期(種類によってはない部位もある)からⅠ期→Ⅱ期→Ⅲ期→Ⅳ期となり、Ⅳ期が最も進行している状態となります。

治療前ステージは治療前の診断で分類されたもの、術後病理学的ステージは術後の病理検査の診断で分類されたものを表します。

また、治療方法は当院で最初に行った治療を下記のとおり分類します。

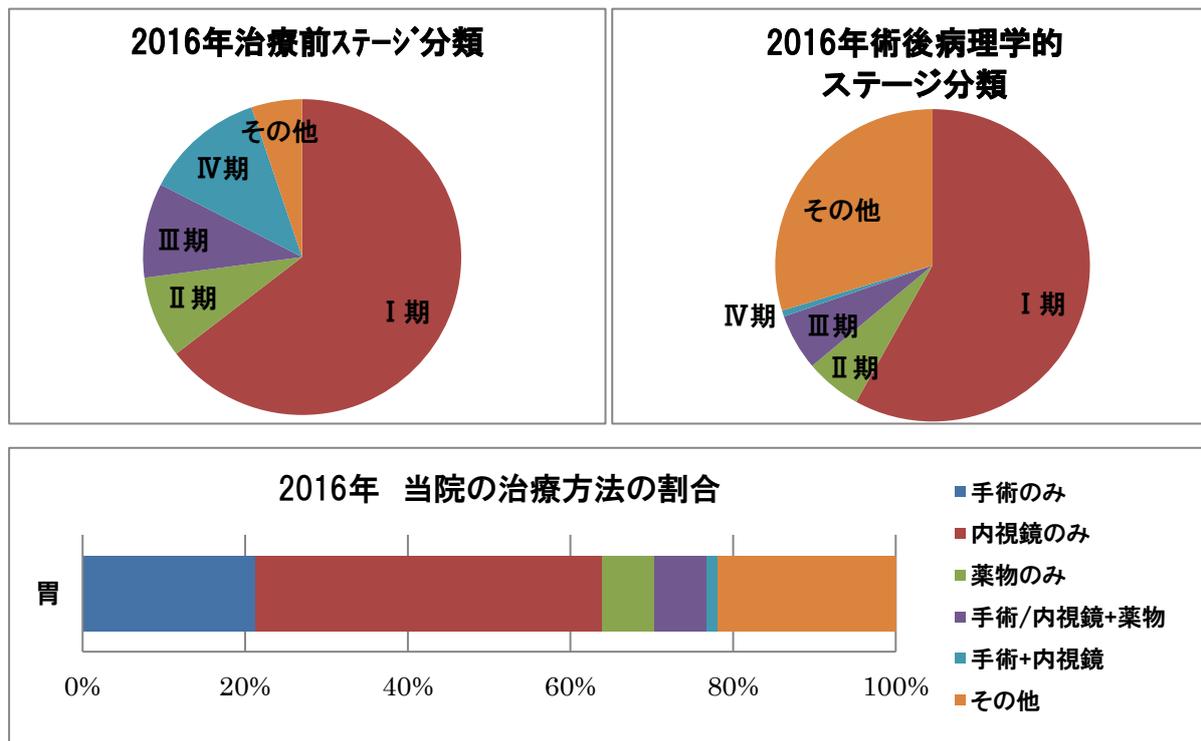
①腫瘍の縮小・消失を目的とした治療

- ・「手術」…開腹手術や腹腔鏡や胸腔鏡など鏡視下手術
- ・「内視鏡」…胃カメラや大腸カメラで切除した治療
- ・「薬物」…化学療法・内分泌療法・免疫療法など薬剤を投与した治療
- ・「放射線」…放射線治療(リニアック)など
- ・「その他の治療」…レーザー治療や動脈塞栓術などの治療
- ・「他の組み合わせ」…「その他の治療」のみや「放射線」+「その他の治療」など

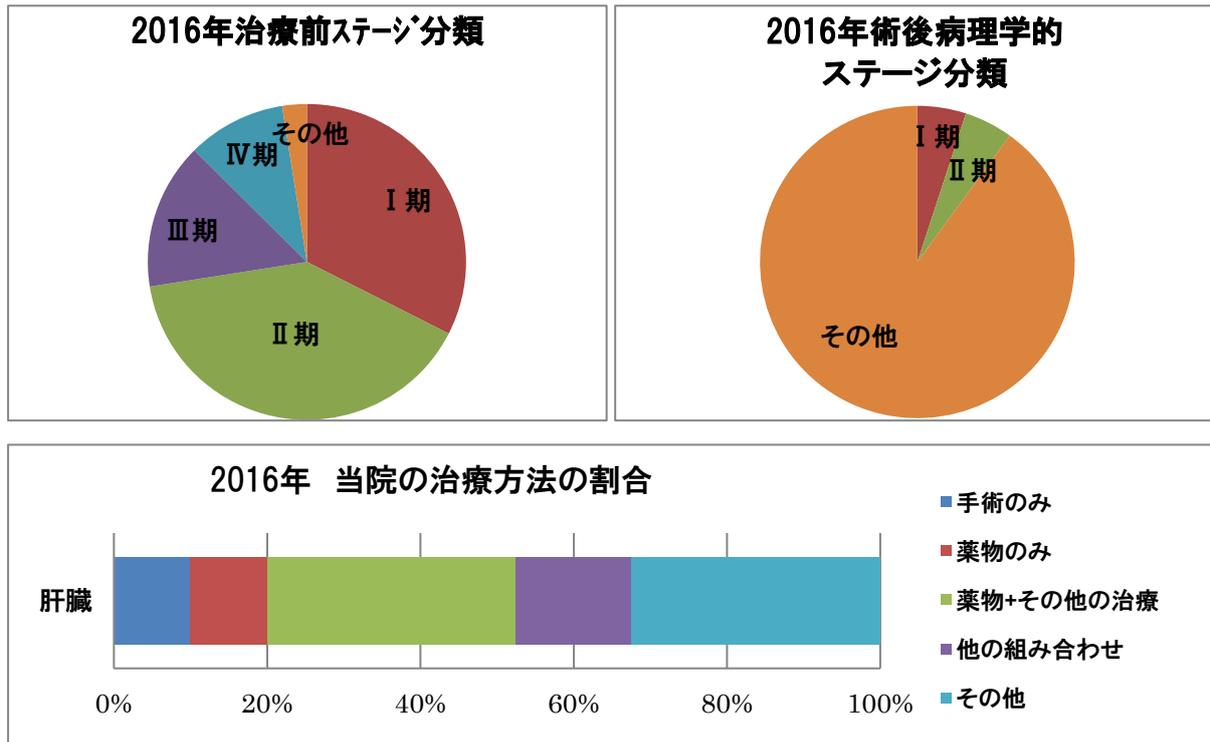
②腫瘍の縮小・消失を目的とした以外の治療

- ・「その他」…症状緩和を目的とした治療や経過観察など

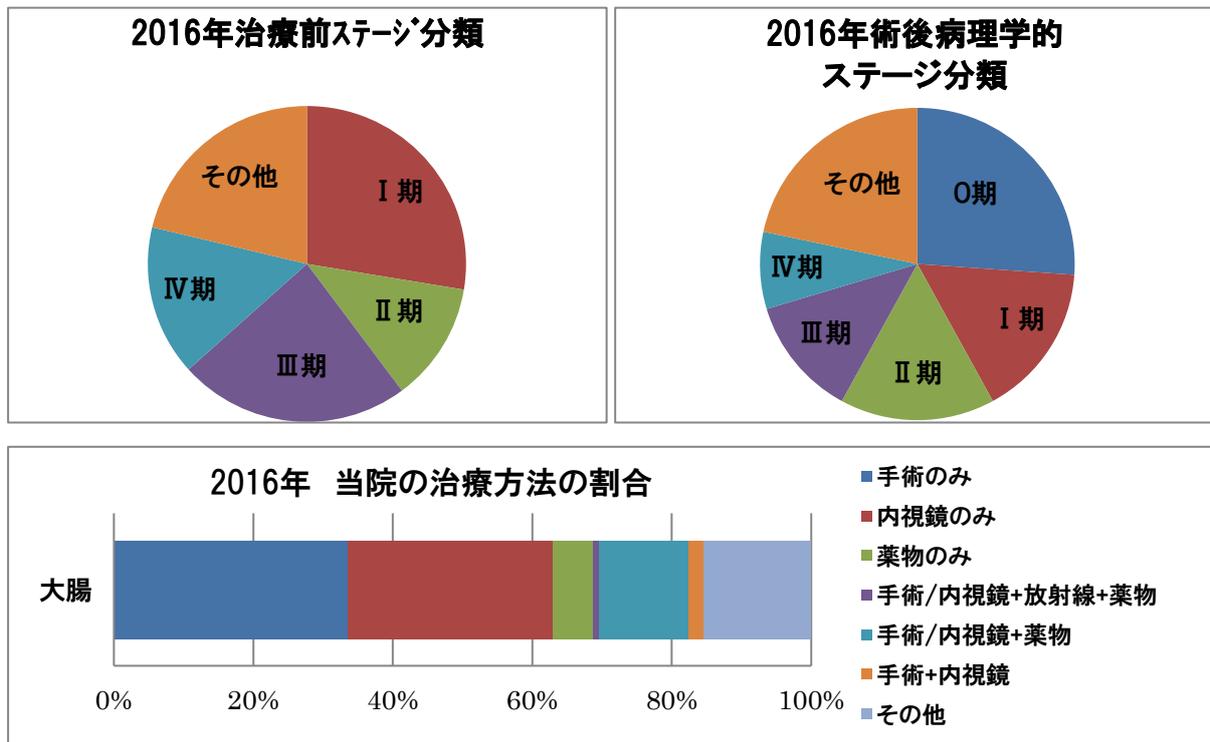
① 胃



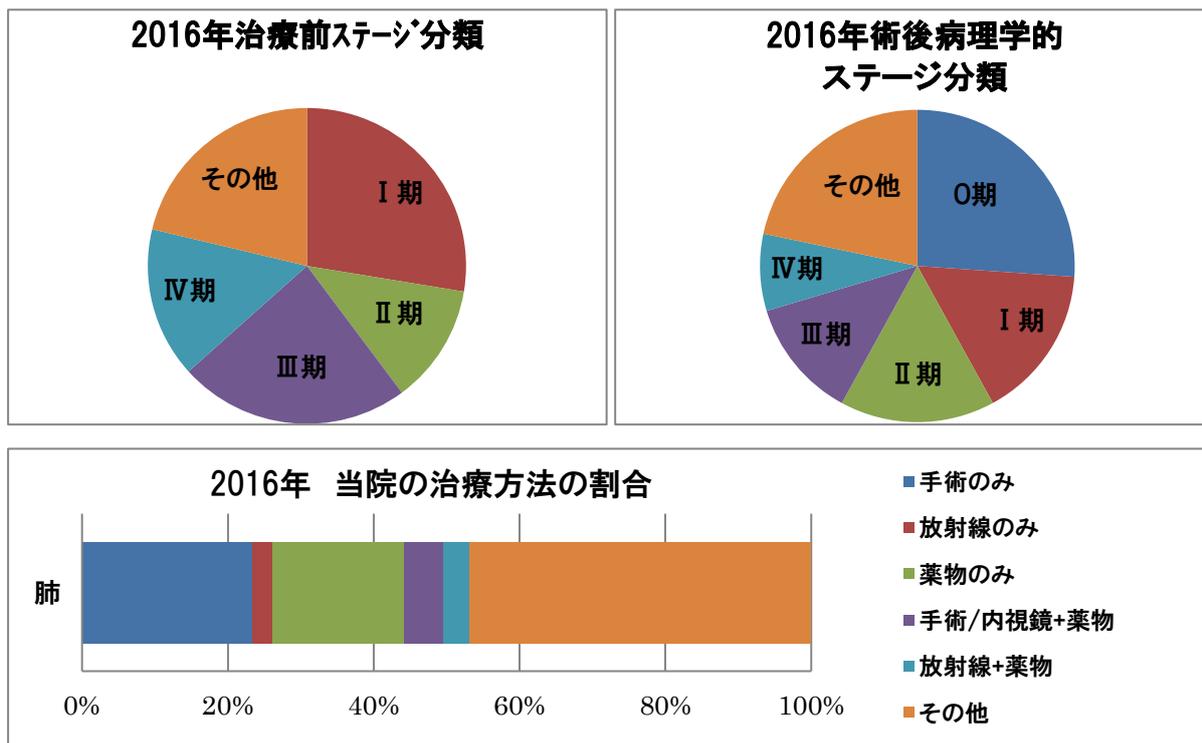
② 肝臓



③ 大腸



④ 肺



⑤ 乳房

